

第118回 生涯教育研修セミナー

日時 2019年6月29日(土) 午後3:00~6:20

場所 明治記念館 富士の間2

参加費 無料

取得単位 日本医師会生涯教育制度参加証交付 3単位 (カリキュラムコード: 1、2、73)

● **開会の辞** 生涯教育研修セミナー委員長 **村田 満**

● **挨拶** 医学部長・慶應医学会長 **天谷 雅行**
慶應医師会会長 **小川 郁**

● **テーマ: 『女性特有のがんにおける最近の話題』**

女性には特有のがんが存在しており、本邦において1年間に乳癌は約7万6千人が罹患し、子宮体癌は約1万4千人、子宮頸癌および卵巣癌はそれぞれ約1万人が罹患する。

乳癌は女性の悪性腫瘍のなかで罹患数は最も多く、30-64歳では死亡原因のトップである。乳房切除および腋窩郭清を行うハルステッド手術から1980年代に入り乳房温存療法が開始され、さらには2000年ごろよりセンチネルリンパ節生検が実臨床に導入されるなど、癌治療における概念の革新が乳癌で行われてきた。また、ERやHER2をベースとするサブタイプに分けた治療が標準治療として確立しており、ホルモン療法、化学療法、分子標的薬など幅広い薬物療法の選択が行われている。

婦人科癌において、子宮頸癌は若年化が進んでおり、20-40歳代で発症するケースが増えている。また、ライフスタイルの変化と関連して子宮体癌の罹患率は上昇している。分子標的薬の婦人科癌への導入は遅れていたが、抗VEGFヒト化モノクローナル抗体であるベバシズマブが卵巣癌と子宮頸癌に用いられるようになり、2018年1月にはPARP(ポリ(ADP-リボース)合成酵素)阻害薬であるオラパリブがプラチナ感受性の再発卵巣癌に対して薬事承認された。オラパリブは2018年7月にBRCA1もしくはBRCA2遺伝子に生殖細胞系列変異をもつ再発乳癌に対しても承認がなされ、ゲノムの情報に基づいた癌治療が始まっている。

本セミナーでは、女性特有のがんについて、実臨床から最新のトピックスに至るまでそれぞれの領域の専門家にわかりやすく解説していただく。

モデレーター: 慶應義塾大学医学部産婦人科学(婦人科) 教授 **青木 大輔**

● **講演**

1: 『癌診療の新たなトレンドを読み解く~婦人科腫瘍の視点から~』

慶應義塾大学医学部産婦人科学(婦人科) 准教授 **阪埜 浩司**

2: 『乳癌診療の最新情報』

杏林大学医学部乳腺外科 教授 **井本 滋**

3: 『ゲノム医療時代における女性のがん』

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 病態制御科学専攻
腫瘍制御学講座(臨床遺伝子医療学分野) 教授 **平沢 晃**

● **挨拶** 中外製薬株式会社 代表取締役副会長 **上野 幹夫**

● **情報交換会** (午後6:30~)

● **挨拶** 慶應義塾常任理事 **竹内 勤**

● **乾杯** 三四会会長 **武田 純三**

次回予定 2019年10月12日(土)開催

セミナー終了後、情報交換会を準備しておりますのでご臨席下さい。

【共催】

慶應義塾大学医学部生涯教育研修セミナー委員会／慶應医師会
慶應義塾大学医学部三四会／慶應医学会
中外製薬株式会社

【連絡先】

〒160-8582 東京都新宿区信濃町35番地
慶應義塾大学医学部総務課内 生涯教育研修セミナー事務局
TEL.03-5363-3611(直通) E-mail: med-somu-3@adst.keio.ac.jp